

歴史書 通信

1

2017 No. 229

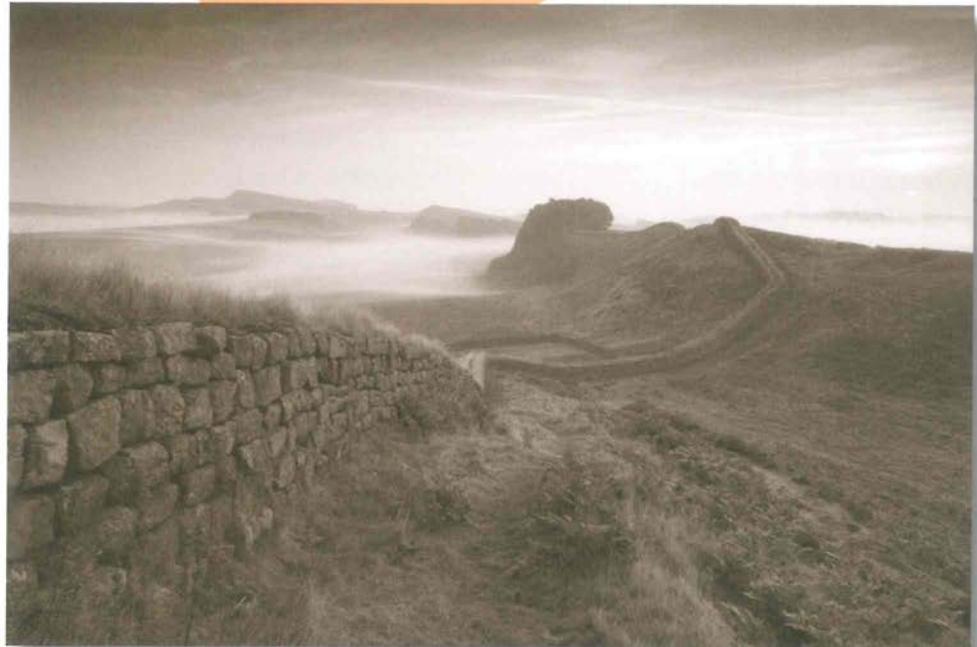
反・「正しい歴史認識」雑感 [前川一郎]

歴史書新刊ニュース (11・12月)

歴史書以外の人文社会図書新刊案内 (11・12月)

会員社刊行の2016年度受賞図書

2016年歴史書懇話会研修旅行記



歴史書懇話会



反・「正しい歴史認識」雑感

前川 一郎

(創価大学国際教養学部教授)

國の功を誇れば「右」といわれ、その罪を糺せば「左」といわれる。わが国では近年、歴史教科書の内容や歴史認識の問題を通して、この二項対立が激しくぶつかりあってきた。

互いに容赦なく攻撃しあってきたので、ときに痛くもない腹を探られ、意固地になって、感情がもつれ、じつに痛々しいありさまに陥ることもある。だから、最近ではとくに若い世代のあいだで、自己中心的な歴史理解にはうんざりする、と苛立つ者が少なくない。

学者曰く、戦前のわが国が悪いことをしたとかしないとか、シンプルに善悪を断定することはできない、と。極論だけが世にはびこるのは問題だ、と。歴史はもっとバランスよく描けるはずだ、と。イデオロギーの束縛から自由になり、右と左の意見を公平に吟味し、国際社会に通じる「正しい歴史認識」を共有しなければならない、と。

今日、そうした思いをストレートにぶつけた作品が書店に平積みされ、歴史認識とはなにかと問いかけている。

右でも左でもない、バランスのとれた、世界に通じる「正しい歴史認識」。

このように聞くと、なんだかすごい話をしている錯覚に陥るけれども、やっぱりそれは錯覚にすぎないということを、一言述べておきたい。

* * *

まず、そもそもその話、右でも左でもない、イデオロギーから自由な歴史認識とはなんなのか。

いうまでもなく、過去は多くの事実から成り立っている。人びとは、そこから重要だと思われる事実を選び取り、これをもって歴史となす。歴史認識とは、つまりは歴史解釈そのものであり、事実を認識する人の数だけある。

植民地支配や戦争といった、さまざまな人びとを巻き込んだ歴史ともなれば、解釈の振幅は相当なものとなろう。私も、翻訳『イギリスの歴史【帝国の衝撃】——イギリス中学校歴史教科書』(明石書店)の訳者あとがきに、「植民地主義の歴史というものは、もとより非対称的な複数の歴史的経験の総体である。それぞれに己が信じる現実があり、過去への想いがある。史料に基づく客観的な叙述に努めるとしても、眺める角度によってはまったく異なる歴

史認識というものがある」と記した。

いったい歴史認識という問題においては、右や左といったものは、過去を認識する際の立場や解釈の違いを示す目印のようなものでしかない。自身で選び取る価値観から導き出された認識であれば、もとより他者が批判すべきところのものではないのである。

それでも、万人が納得する「正しい歴史認識」を唱えるとしたら、それはもはや歴史認識云々ではなく、日本の戦争責任や植民地支配責任をめぐる昨今の政治論争に、自分から進んで身を投じる行為としてみるべきではないか。そう開き直ったほうが、主張する本人も、よほどスッキリするのではないか。

じっさい、1990年代以降、日韓・日中関係のあいだで政治問題化した「歴史認識問題」においては、歴史認識ということばをかりて、国内外でさまざまな政治的主張がなされ、激しく対立した。そういうことがいけない、といっているのではない。極論から距離をおき、局外中立を表明する選択もありうるだろう。だが、右であれ左であれ、中立であれ、たんに自分の政治的立場を語っているにすぎないだけのことを、いつの間にか歴史認識のレベルにまで持ち込んでしまい、一つの解釈の正しさを争って他者を言い負かそうと躍起になつていると、たんに話がおかしくなってしまう、ということである。

* * *

ある歴史認識の正義を認めるよう他人に強制することがもともと無理な話であるように、解釈の違いをバランスよく配した歴史叙述を唱えても、所詮現実的な議論とはなりえないだろう。

この点でまず思い浮かべるのは、今世紀に共通教科書を作成した、独仏両国の試みである。両国の言語で書かれた「共通」の内容について、生徒が主体的に考えを深める教育は、異なる歴史理解のあいだに対話の経路を確立する真摯な試みとして、注目を集めた。

私は、立場の違いを超えて対話をうながすこうした動きこそが重要だと思うし、関係者の苦労には心から敬意を表する。だが、異なる歴史叙述を一つに収斂させる共通教科書のやり方は、本当に現実的たりうるだろうか。

報道によれば、独仏共通歴史教科書は現在、運用面でさまざまな困難を抱えているようである。第一に、教科書は広く配布されたが、目標の10万部には遠く及ばなかった。共通教科書を導入した教室でも、ほとんどの場合、補助教材として使われているだけである（もっとも、欧州の授業では、教員が複数の教科書を用いて教えるので、教科書と副読本をわけて使う日本のスタイルとは異なる）。より深刻なことには、両国でそれぞれ8割の人びとが、「これは相手国の教科書」と考えているのだという。共通教科書を推進する側は、行く末はEU全体で共通教科書を用いて、国家間の相互理解を深めたいとし

ているが、はたしてそれがどれほど現実離れした話であるかは、昨今の厳しいEU事情からも察してあまりある。

他方、共通歴史教科書とは異なるやり方で、バランス感覚に富んだ歴史認識を育もうとする試みとしては、功罪両論を併記する方法もある。典型は、英國の歴史教科書である。かの国の教科書は、奴隸貿易や植民地化がもたらした被害や搾取の惨状を克明に描く一方で、そうした過ちを反省し、改善に尽力した英國の嘗々たる努力も平等に評価する中立的姿勢に徹している。

しかし、詳しく論じる余裕はないが、英國の教科書における功罪両論併記には、中立的な叙述に依拠しながら、他方で「悪いのは英國だけではない」といった、一方の側に責任を過度に負わせないような発想が見え隠れしてはいないだろうか。また、奴隸貿易をめぐる言説にみられるように、今日の価値観に照らせば非難されるべきだが、当時はそんな時代だった（から仕方ない）といった説明は、歴史の不適切を語りながら、時代を方向づけたイデオロギー性を不問に付すものであろう。

いずれにしても、教室で恥すべき過去が教えられるなか、英國政府は国民の支持をえて、植民地支配責任を拒みつづけているのである。このパラドクス（にみえる状況）を説明できないかぎり、英國の教科書が誇る功罪両論併記を手放して評価することはできない。

* * *

要するに、陳腐な話を繰り返すようだが、右でも左でもない、バランスのとれた歴史認識といつても、とうてい一筋縄ではいかないのである。とりわけ、過去を認識する内面の問題に外から政治的解決を迫るような、昨今の「正しい歴史認識」論は、はなはだ非現実的で拙速な議論だと思われてならない。

たとえば、日本史と韓国史と中国史を「融合」すれば、慰安婦問題や歴史教科書問題を解決に導けると、どこまで本気で信じることができるだろうか。

ましてや一部の学者らやネット界隈で囁かれているように、日本の歴史認識は国際的な常識から相当にかけ離れているので、日本の「正義」は今も昔も通用しないのだといった話を聞くに及んでは、自分も政治的にコミットしたいという欲求や無垢な自己顯示欲の装いとしてならまだしも、まじめな歴史認識論としてはもはや意味不明である。この種の主張にまともにつきあう必要はないだろうが（もっとも、国際社会と日本の感覚のズレを嘆く議論全体に看取できる、欧米普遍主義を無邪気に内面化した心性それ自体は、別の文脈で論じる意味はある）、これもまた、歴史認識をめぐる昨今の議論の迷走ぶりを示す一端なのかもしれない。

わが国では、集団的自衛権の問題が先鋭化した2年ほど前から、どういうわけか安全保障に対する姿勢をめぐって各人の歴史認識が問われるようになり、「歴史認識問題」はいっそう混迷

の度を深めてきた。そうなればなるほど、私自身の考えは、かえってシンプルに削がれていったように感じられる。すなわち、歴史認識に左右を超えた共通の正しさなどあるべくもない。どんな言い分であれ、各人がそれぞれ抱く過去への思いがある。それは否定しないものである。「正しい歴史認識」などというものは、もとよりあってはならないものなのだ、と。

右であれ左であれ、歴史認識の違いを前提としてこそ、人びとは、対立しあう歴史的経験を互いの眼前に提示することが許される。そうして、他者から見られ聞かれることで成り立つ人びとのつながりを、どんなに時間がかかっても築いていくよりほかないではないか。共通歴史教科書の意義は、異なる歴史を「融合」することではなく、

ましてや「正しい歴史認識」を共有することではなく、ときに痛みを伴う対話をつうじて、あせらずじっくりと他者の声に耳を傾け、立場の違いを、歴史的背景を、同意できないまでも理解しようと努めるプロセスにこそある。

たしかに、「歴史認識問題」の政治的解決というものはある。それとは別に、異なる歴史認識のありようを受け入れ、長い時間をかけて探し続けること自体に意味がある。おそらくこれが、歴史の学徒であればみなふつうに抱くであろう、雑感というものである。

〈表紙写真〉ハドリアヌスの長城

1987年に、ユネスコの世界遺産(文化遺産)に登録された、イギリスの北部にあるローマ帝国時代の城壁(圍壁)跡。
(提供: 英国政府観光庁)

新刊ニュース

11・12月の新刊 *発売予定のものもあります

歴史一般

事典／年表・地図／歴史学・補助学

都市史学会編

都市史研究 3-2016

都市史学会の会誌の第3号。論文・研究ノートのほか、小特集・書評など。

B5判 168頁 3,800円

山川出版社 [12月刊]

978-4-634-52753-9

考古学

概論・通史／日本／アジア／ヨーロッパ／アフリカ／アメリカ／その他

鈴木三男著

クリの木と縄文人

(ものが語る歴史 33)

A5判 184頁 3,400円

同成社 [12月刊]

クリが食糧や木材として縄文社会とどう関わり、その衰退と共になぜ利用されなくなったのか、考古資料を中心に植物学的手法から解明。

978-4-88621-747-9

下垣仁志著

日本列島出土鏡集成

三角縁神獣鏡から仿製鏡まで、弥生・古墳時代の出土鏡を完全網羅。今後の研究の基礎資料となる鏡集成の決定版！

A4判 568頁 8,000円

同成社 [12月刊]

978-4-88621-749-3

一瀬和夫著

百舌鳥・古市古墳群

東アジアの中の巨大古墳群

四六判 152頁 1,200円

同成社 [12月刊]

世界遺産への登録準備も進む大阪府の巨大前方後円墳について、その築造の背景を東アジア史の視点でとらえ、その普遍的価値を紹介する。

978-4-88621-746-2

若狭 徹著

前方後円墳と東国社会

古墳時代（古代の東国 1）

四六判 308頁 2,800円

吉川弘文館 [12月刊]

古墳の立地・規模・出土品などから、社会のあり方や変化、朝鮮半島との交流、豪族たちの実像を読み解き、東国古墳社会の実態に迫る。

978-4-642-06818-5

向井一雄著

よみがえる古代山城

国際戦争と防衛ライン（歴史文化ライブラリー 440）

四六判 224頁 1,700円

吉川弘文館 [12月刊]

朝鮮半島にルーツを持つ日本の古代山城。史書など記録にない謎の遺跡「神籠石系山城」を中心に実態を探り、新たな古代山城の姿を描く。

978-4-642-05840-7

齋藤慎一・向井一雄著

日本城郭史

四六判 508頁 4,200円

吉川弘文館 [11月刊]

環濠集落から近世城郭へ、いかなる変遷を遂げたか。「軍事」と「日常」の二つの視点から実態を探り、都市空間論まで踏み込んで解説。

978-4-642-08303-4

高橋信武著

西南戦争の考古学的研究

B5判 320頁 13,000円

吉川弘文館 [12月刊]

考古学的に西南戦争を探究した初めての書。当時の主要小銃・弾薬などの遺物や九州各地の陣地の遺構から両軍の兵力・装備を追究する。

978-4-642-09349-1

日本史

概論・通史／史料／古代／中世／近世／近代／現代／地方史

磐下 徹著

日本古代の郡司と天皇

A 5 判 312 頁 9,000 円

吉川弘文館 [11月刊]

978-4-642-04633-6

古代国家は、地方豪族を郡司に編成し地方支配を目指した。孝徳朝に確立された郡司と天皇の関係や郡司層からその成立過程を考察する。

佐藤健太郎著

日本古代の牧と馬政官司

A 5 判 318 頁 9,500 円

壇書房 [10月刊]

978-4-8273-1284-3

日本古代の牧や焼印制度の特質を提示し、また馬・乳製品を用いた儀式を検討し、馬牛・牧・馬政官司を総合的に考察する。

藤本 誠著

古代国家仏教と在地社会

日本靈異記と東大寺謡誦文稿の研究

A 5 判 392 頁 11,000 円

吉川弘文館 [11月刊]

978-4-642-04634-3

『日本靈異記』などの史料論的考察をおこない、地方の仏教施設での説法の様子や階層性を分析。仏教受容のあり方と特質を解明する。

大津 透編

史学会シンポジウム 摂関期の国家と社会

A 5 判 296 頁 4,000 円

山川出版社 [11月刊]

978-4-634-52365-4

摂関期の国家や社会は律令制から平安時代前期を経ていつどのように変化し、また何が変わらなかつたのか。多様な切り口から実証的に考察する。

笠山晴生著

平安初期の王権と文化

A 5 判 280 頁 9,000 円

吉川弘文館 [11月刊]

978-4-642-04632-9

律令制が揺らぐ8～9世紀、警察機構と王権の不可分な関係を追究。国史編纂や、宇多天皇の独自性を照射。古代天皇制の特質に迫る。

桃崎有一郎著

平安京はいらなかつた

古代の夢を喰らう中世（歴史文化ライブラリー 438）

四六判 288 頁 1,800 円

吉川弘文館 [11月刊]

978-4-642-05838-4

平安京は必要だったのかー。理念優先で造られた都市が「使いにくさ」を克服していく姿を描き、新視点で“千年の都”的本質に迫る。

高橋昌明著

東アジア武人政権の比較史的研究

歴史科学叢書

A 5 判 366 頁 10,000 円

校倉書房 [11月刊]

978-4-7517-4700-1

日本の武士や武家政権についての解明や歴史的位置づけを明確にするため、視野を広げて東アジアレベルの武人政権の比較史を中心に論じた。

河合正治著

足利義政と東山文化

(読みなおす日本史)

四六判 192 頁 2,200 円

吉川弘文館 [11月刊]

978-4-642-06720-1

政治に意欲を示すが応仁の乱を招いた義政。書院造や作庭など、芸能・文化の支援者でもあった。時代の転換点に翻弄された生涯を描く。

スムットニー祐美著

茶の湯とイエズス会宣教師

中世の異文化交流

四六判 248 頁 4,600 円

思文閣出版 [12月刊]

978-4-7842-1863-9

宣教の糸口として宣教師たちが重視した茶の湯。茶の湯とキリスト教との関係を、本邦初公開の史料をもとに詳細に明らかにする。

中澤克昭著

真田氏三代と信濃・大坂の合戦

(人をあるく)

A 5 判 160 頁 2,000 円

吉川弘文館 [11月刊]

978-4-642-06794-2

天下人らと渡り合い、戦国を生き抜いた真田一族。弱小氏族から大名へといかに成長したのか。本拠地上田を訪ね、上田合戦と大坂の陣に迫る。

菊池勇夫著

非常非命の東北大飢饉

A 5 判 276 頁 8,000 円

校倉書房 [12月刊]

978-4-7517-4720-9

石井 明著

江戸の風俗事典

A 5 判 232 頁 3,200 円

東京堂出版 [11月刊]

978-4-490-10882-8

落合 功著

国益思想の源流

(江戸時代史叢書 33)

四六判 186 頁 1,900 円

同成社 [11月刊]

田沼時代の名主・池上幸農が推進した砂糖国产化や海中新田開発等を国益思想の登場と捉え、時代の大転換をリードした重要概念を詳述する。

978-4-88621-745-5

高澤裕一著

加賀藩の社会と政治

A 5 判 480 頁 13,000 円

吉川弘文館 [12月刊]

978-4-642-03476-0

猪飼隆明著

近代日本におけるハンセン病政策の成立と病者たち

歴史科学叢書

A 5 判 428 頁 10,000 円

校倉書房 [11月刊]

明治 40 年の法律「癞予防ニ関スル件」について

検討し、それに基づいて設立された九州療養所の患者自治の問題に重点をおいて考察。

978-4-7517-4710-0

飯塚一幸著

日清・日露戦争と帝国日本

(日本近代の歴史 3)

四六判 260 頁 2,800 円

吉川弘文館 [11月刊]

19 世紀末、帝国化はいかに進められたのか。藩閥と政党の対立と協調、企業勃興、日清戦争から日露戦争へ。帝国化の起点に迫る。

978-4-642-06814-7

櫻井良樹著

国際化時代「大正日本」

(日本近代の歴史 4)

四六判 260 頁 2,800 円

吉川弘文館 [12月刊]

植民地帝国へ変貌した日本は、中国の革命への対処など国際化に曝された。ワシントン会議から二大政党制とつづく変革の時代を描く。

978-4-642-06815-4

白木沢旭児著

日中戦争と大陸経済建設

A 5 判 304 頁 8,500 円

吉川弘文館 [11月刊]

978-4-642-03861-4

太田久元著

戦間期の日本海軍と統帥権

A 5 判 300 頁 9,500 円

吉川弘文館 [12月刊]

日本海軍の編制権が統帥権に包含されていく過程での、海軍省と軍令部の構造変化、この構造の海軍政策決定への関与を分析する。

978-4-642-03862-1

バラク・クシュナー著

思想戦 大日本帝国のプロパガンダ

四六判 432 頁 3,700 円

明石書店 [11月刊]

戦時下日本のプロパガンダは官・民・軍一体となって行われたものであり、戦後復興にまで影響を及ぼす継続性を持っていたことを明らかにする。

978-4-7503-4436-2

イン・ニアリー著、森山沾一・福岡県人権研究所プロジェクト監訳、平野裕二訳
部落問題と近現代日本 松本治一郎の生涯
世界人権問題叢書 97

四六判 480 頁 5,800 円

明石書店 [11月刊]

部落解放同盟の指導者として部落差別と闘い、戦後は日本社会党の政治家として活躍した松本治一郎の生涯を日本近現代史の流れと重ねて描く。

978-4-7503-4435-5

綱本逸雄・糸井通浩編
地名が語る京都の歴史

A 5 判 496 頁 4,500 円

東京堂出版 [12月刊]

現代にも残る地名や歴史の中で消えた地名について、古代から現代に至るまで、その時代ごとの背景の中で詳細に考察。

978-4-490-20956-3

幡鎌一弘・安田次郎著
祭礼で読み解く歴史と社会

春日若宮おん祭の900年

A 5 判 208 頁・口絵 4 頁 2,000 円 山川出版社 [12月刊]

奈良の歴史や社会の変遷、寺社の役割、伝統芸能など多様な分野を約 900 年にわたって続いてきた「おん祭」を通して明らかにする。

978-4-634-59086-1

世界史

概論・通史／アジア／ヨーロッパ／アフリカ／アメリカ／オセアニア

羽田 正責任編集

地域史と世界史

(MINERVA 世界史叢書 1)

A 5 判 338 頁 5,500 円

ミネルヴァ書房 [11月刊]

地域から見た世界史の接続と不接続、過去の一地点から見渡す世界、時系列と同時代が織りなす新しい時空間を俯瞰する。

978-4-623-07112-8

池田嘉郎・上野慎也・村上衛・森本一夫 編
名著で読む世界史 120

A 5 判 368 頁 1,800 円

山川出版社 [12月刊]

古代から現代まで、教科書でおなじみの世界の名著 120 作品を歴史的視点から解説し、新しい知の発見へと導く読書ガイド。

978-4-634-64063-4

藤野彰・曾根康雄著

現代中国を知るための 44 章 [第5版]

(エリア・スタディーズ)

四六判 380 頁 2,000 円

明石書店 [11月刊]

習近平・李克強指導部がどのようなかじ取りをしていくのかを、政治、経済、社会、国際関係の視点から解説する、時宜を得た入門書。

978-4-7503-4446-1

長田紀之著

胎動する国境

英領ビルマの移民問題と都市統治 (モノグラフ 31)

A 5 判 264 頁 5,000 円

山川出版社 [11月刊]

イギリス植民地統治下のビルマにおいて、移民統制にまつわる植民地行政の日常的実践が都市の人々の暮らしにどう影響したのか考察する。

978-4-634-67388-5

新保良明著

古代ローマの帝国官僚と行政

(MINERVA 西洋史ライブラリー 110)

A 5 判 392 頁 6,500 円

ミネルヴァ書房 [12月刊]

都市というコンパクトな行政単位が、その繁栄の根源にあったことに論及し、古代ローマ帝国史に新しい見方を提供する論考。

978-4-623-07538-6

芦部 彰著

カトリシズムと戦後西ドイツの社会政策

1950 年代におけるキリスト教民主同盟の住宅政策 (モノグラフ 33)

A 5 判 256 頁 5,000 円

山川出版社 [11月刊]

西ドイツ建国とともに政権についたキリスト教民主同盟 (CDU)。CDU を支えた理念、理想とした人間像、形成しようとした社会に迫る。

978-4-634-67391-5

屋敷二郎著

フリードリヒ大王

祖国と寛容 (世界史リブレット 1 55)

A 5 変型 (予)100 頁 800 円

山川出版社 [12月刊]

啓蒙絶対君主の典型とされるフリードリヒ大王。彼の生涯をたどり、啓蒙とは何か、プロイセン国家とは何だったのかを考える。

978-4-634-35055-7

フランソワ=ジョゼフ・ルッジウ 著 高澤紀恵・竹中和亮 編
都市・身分・新世界

(レクチャーズ 9)

B 6 変型 128 頁 1,500 円

山川出版社 [11月刊]

18 世紀における英仏市民の政治参加の動機や新世界へ大西洋を渡ったフランス貴族の実態を検討し、近世ヨーロッパの政治空間を論じる。

978-4-634-47509-0

辻 明日香著

コプト聖人伝にみる十四世紀エジプト社会
(モノグラフ 32)

A 5 判 272 頁 5,000 円

山川出版社 [11月刊]

14～15世紀に著されたコプト教会の聖人伝から当時のエジプトの社会状況を読み解き、そこから浮かび上がる中東社会の様相を解き明かす。

978-4-634-67389-2

安村直己著

コルテスとピサロ

遍歴と定住のはざまで生きた征服者（世界史リブレット人 48）

A 5 変型 100 頁 800 円

山川出版社 [12月刊]

アステカ王国とインカ帝国の征服によって世界史はどう進路を変えたのか。征服者であるコルテスとピサロに焦点を合わせながら答えを探る。

978-4-634-35048-9

文化史文化史一般／政治・外交・経済／思想・宗教／
教育・科学／文学・美術・芸術／社会生活

鹿島 茂著

聖人 366 日事典

A 5 判 484 頁 3,800 円

東京堂出版 [11月刊]

960 人を超える聖人を収録し、その生涯やエピソードを味わい深い解説で紹介。著者ならではの幅広い目配りと豊富な情報量。

978-4-490-10883-5

祭祀史料研究会編

祭祀研究と日本文化

A 5 判 336 頁 9,500 円

壇書房 [12月刊]

「延喜式祝詞」等の輪読や現地調査を軸とする祭祀史料研究会による、祭りや神社の変化・国家との関わりなど、広範な学問領域の 16 篇。

978-4-8273-1285-0

有山輝雄著

情報霸権と帝国日本Ⅲ

東アジア電信網と朝鮮通信支配

四六判 480 頁 4,500 円

吉川弘文館 [11月刊]

西欧依存から脱却し、自立的な通信支配をめざす日本。東北アジア通信霸権形成に至るまでの外交過程をたどる、日朝関係の情報通信史。

978-4-642-03860-7

佛教史学会編

佛教史研究ハンドブック

A 5 判 400 頁 2,800 円

法藏館 [12月刊]

インド、アジア諸国・地域、中国、朝鮮半島、日本の仏教の歴史と教義がつめこまれた便利でコンパクトな一冊。佛教史を学び始めたい人、幅広く知りたい人に最適！

978-4-8318-6005-7

石田茂作著

日本仏塔の研究（全2冊）

B 4 判 614 頁 40,000 円

吉川弘文館 [11月刊]

釈迦の遺骨を祀るためにインドで誕生した仏塔は、日本に伝わり独自の形に発展。多層塔・五輪塔などの形態と役割、石など遺品を解説。〈分売不可〉

978-4-642-01655-1

渡辺守順著

僧兵盛衰記

(読みなおす日本史)

四六判 240 頁 2,200 円

吉川弘文館 [12月刊]

白河法皇が意のままにならぬと嘆いた僧兵は、行動を衆議で決め、仏法と本山を守って行動した。僧兵集団を再評価し、その実態を解明。

978-4-642-06721-8

加藤俊二著

児童相談所 70 年の歴史と児童相談

“歴史の希望としての児童”の支援の探求

A 5 判 390 頁 2,800 円

明石書店 [11月刊]

日本の児童福祉や児童相談所はどのように変遷し、虐待問題という喫緊の課題を抱え、どのように変わっていくべきなのか。実践と経験から探る。

978-4-7503-4434-8

前田勉著

江戸教育思想史研究

A 5 判 596 頁 9,500 円

思文閣出版 [11月刊]

学習の方法、教育の目的に注目。官学／私学、儒学／国学／蘭学といった枠組みを超え、17世紀から明治初期までを見通し、新たな地平を拓く。

978-4-7842-1866-0

伊藤大輔・加須屋 誠著 治天のまなざし、王朝美の再構築 鎌倉・南北朝時代（天皇の美術史 2） A5判 254頁 3,500円	吉川弘文館 [12月刊]	鎌倉～南北朝期の美術史を、「まなざし」の力学から考察。絵巻物など院政期美術を再検討し、未解明の14世紀美術史を体系的に把握。 978-4-642-01732-9
桑原宗典著 利休の茶の花 いけばなど茶の湯 A5判 206頁 3,700円	思文閣出版 [11月刊]	「いけばな」と「茶花」の根源にある共通性を明らかにし、いけばなが利休に与えた影響と、その花に込められていた思想を探る。 978-4-7842-1837-0
熊倉功夫著 熊倉功夫著作集 第三巻 近代茶道史の研究 A5判 486頁 7,000円	思文閣出版 [12月刊]	茶道衰退から復興へ。数寄者から家元へ。変動する茶道像の中に茶の湯者の思索のあとをたどる。はじめて書かれた近代茶道の全貌。 978-4-7842-1854-7
竹内順一／岡佳子／ルイズ・コート／アンドリュー・M・ワツキー編 「千種」物語 二つの海を渡った唐物茶壺 A5判 286頁 3,200円	思文閣出版 [12月刊]	中国で生まれた壺が、16世紀日本で茶道具「千種」として名物となった。魅惑の唐物茶壺「千種」の歴史的な変遷と多様な文化事象をひもとく。 978-4-7842-1870-7
山下麻衣著 看護婦の歴史 寄り添う専門職の誕生 A5判 208頁 3,500円	吉川弘文館 [12月刊]	しかるべき養成を受けた看護婦は明治に誕生した。「女性が多く就く労働者」と看護婦を見なし、養成方法や職務内容などの歴史を描く。 978-4-642-03863-8
原田信男著 和食の歴史 (和食文化ブックレット5) A5判 96頁 900円	思文閣出版 [11月刊]	「和食」はいつ、どのようにできあがったのか。また、その独自性はどうして生まれたのか。シリーズ第5巻では、「和食」成立までの歴史を学ぶ。 978-4-7842-1868-4
沢山美果子著 江戸の乳と子ども いのちをつなぐ（歴史文化ライブラリー441） 四六判 228頁 1,700円	吉川弘文館 [12月刊]	貴い乳、乳持ち奉公、乳と捨て子、長期授乳…。乳をめぐる人の繋がりを探り、子どもを育てるネットワーク形成の意味を考える。 978-4-642-05841-4
斎藤英喜・井上隆弘編 神楽と祭文の中世 要容する信仰のかたち A5判 390頁 8,000円	思文閣出版 [12月刊]	中世の信仰と思想を伝える「祭文」を中心に、中世神楽および関連する陰陽道・密教・アジアの巫俗の世界を読み解く意欲作。 978-4-7842-1871-4

伝記

笠谷和比古著 徳川家康 われ一人腹を切て、万民を助けべし 四六判 460頁 3,500円	ミネルヴァ書房 [12月刊]	持前の努力と強運、そして家臣団に支えられてついに天下人となった徳川家康。本書では、卓越した戦略と政略、そして政治思想を解明する。 978-4-623-07869-1
中野 等著 石田三成伝 四六判 530頁 3,800円	吉川弘文館 [12月刊]	豊臣政権を支えた五奉行の一人。「文治派」「智の參謀」「関ヶ原」イメージを超えて、一次史料から明らかとなつた人間三成の実像。 978-4-642-02934-6

※表示価格はすべて本体価格です。

藤本清二郎著

紀州藩主 德川吉宗

明君伝説・宝永地震・隠密御用（歴史文化ライブラリー 439）

四六判 240 頁 1,700 円

吉川弘文館 [11月刊]

明君伝説から解き放ち、若き日の將軍前史を描く初の書。紀州藩主時代の諸政策を明らかにし、將軍としての施政に与えた影響を探る。

978-4-642-05839-1

木村 涼著

八代目市川團十郎

気高く咲いた江戸の花

四六判 256 頁 2,800 円

吉川弘文館 [12月刊]

江戸の花形役者として一世風靡するも、32歳で突然の死を遂げた8代目。新発見の團十郎一家の手紙を紹介しつつ波瀾の生涯を描く。

978-4-642-08304-1

佐々木英昭著

夏目漱石

人間は電車ぢやありませんから

四六判 410 頁 3,500 円

ミネルヴァ書房 [12月刊]

近代日本文学に燐然と輝く軌跡を残し、「日本人の先生」とも称される漱石。その思考を照らし、人間の〈内的〉な部分を見通す評伝。

978-4-623-07893-6

橋本富太郎著

廣池千九郎

道徳科学とは何ぞや

四六判 498 頁 3,500 円

ミネルヴァ書房 [11月刊]

モラロジーを提唱し、麗澤大学を設立する一方、東洋法制史開拓でも知られる廣池千九郎。彼の道徳観はいかに形成されたのか。

978-4-623-07738-0

小堀桂一郎著

鈴木貫太郎

用うるに玄黓より大なるはなし

四六判 482 頁 4,200 円

ミネルヴァ書房 [11月刊]

海の男「鬼貫太郎」。見つめた「国のある方」、終戦工作に挑む。

978-4-623-07842-4

須藤 功著

早川孝太郎

民間に存在するすべての精神的所産

四六判 432 頁 4,000 円

ミネルヴァ書房 [11月刊]

奥三河に伝わる花祭を調査し、民俗芸能の古典『花祭』を著した早川孝太郎。旅の中で民間伝承を探究し続けた、その知られざる生涯を描く。

978-4-623-07839-4

雑誌

日本歴史

日本歴史学会編集

12月号（第823）=11月刊
2017年1月号（第824）=12月刊

日本史専門の月刊誌として、また最も親しみやすい歴史知識の普及誌として、研究者から一般社会人まで、幅広い各層が購読。

一年間直接購読料 8,300 円〔税・送料込〕

◆各種割引制度有

二年間前払い 16,000 円〔税・送料込〕

三年間前払い 23,500 円〔税・送料込〕

学生・院生 一年間 5,000 円〔税・送料込〕

A5判 12月号=130頁、1月号=162頁

12月号=741円、1月号=972円

吉川弘文館 [11・12月刊]

歴史書以外の 人文社会図書新刊案内

2016.11.12

明石書店

- ビジュアル大百科 聖書の世界 マイケル・コリンズ総監修 A4 変型判 30,000円 11月
寺島メソッド英語アクティブ・ラーニング 寺島隆吉監修 A5 判 2,500円 11月
難民を知るための基礎知識 山田満・滝澤三郎編著 四六判 2,500円 12月
批判的教育学事典
マイケル W. アップル、ウェイン・アウ、ルイ・アルマンド・ガンディン著 B5 判 25,000円 12月

ミネルヴァ書房

- 漢字がつくった東アジア 東アジア論 石川九楊著 A5 判 9,000円 11月
生命パラダイムから歴史と芸術を読む 行為と表現の世界 小林道憲著 A5 判 6,500円 11月
学びのデザイン：学習科学 日本教育工学会監修・大島純・益川弘如編著 A5 判 2,700円 11月
協調学習と CSCL 日本教育工学会監修・加藤 浩・望月俊男編著 A5 判 2,700円 11月
政策実施の理論と実像 真山達志編著 A5 判 3,500円 11月
犯罪はなぜくり返されるのか 社会復帰を支える制度と人ひと 藤本哲也著 四六判 3,000円 11月
日・EU 経済連携協定が意味するものは何か 新たなメガFTAへの挑戦と課題
長部重康編著 A5 判 3,500円 11月
アスベスト公害の技術論 公害・環境規制のあり方を問う 田口直樹編著 A5 判 5,500円 11月
昭和文化のダイナミクス 表現の可能性とは何か 中江桂子編著 A5 判 3,000円 11月
二〇一三年参院選 アベノミクス選挙 「衆参ねじれ」はいかに解消されたか
白鳥 浩編著 四六判 3,500円 12月
都市祭礼文化の継承と変容を考える ソーシャル・キャピタルと文化資本 山田浩之編著 A5 判 5,000円 12月
ゼロからの経営戦略 沼上 幹著 四六判 2,000円 12月
書とはどういう芸術か 書論 石川九楊著 A5 判 9,000円 12月
宗教とは何か 根源的生命への帰一 小林道憲著 A5 判 6,500円 12月
「格差」から考える社会政策 雇用と所得をめぐる課題と論点 芝田文男著 A5 判 2,800円 12月
日本の橋 その物語・意匠・技術 五十嵐 弘著 A5 判 2,000円 12月

会員社刊行の2016年受賞図書

【2016年度 全日本博物館学会賞】

近代日本〈陳列所〉研究 三宅拓也著……………A5判 7,800円 思文閣出版
全日本博物館学会員の著書、雑誌『博物館学雑誌』に投稿された論文の中から優れた著書、論文を選び贈呈される。

【第1回 日本カナダ学会賞】

カナダの自立と北大西洋世界—英米関係と民族問題— 細川道久著…A5判 5,000円 刀水書房
日本におけるカナダ研究の優れた成果を顕彰し、カナダ研究の発展に資することを目的として、カナダに関する優れた邦語書籍及びその著者に対して授与する。

【第11回 女性史学賞】

日本古代の女帝と譲位 遠藤みどり著……………A5判 7,000円 塙書房
女性史のより一層の発展を図るため、歴史学のみならず、文学・社会学・文化人類学・美術史学など広い分野から、ジェンダー的視点をもつ研究に贈られる。

【第14回 天野和夫賞】

中世の法秩序と都市社会 高谷知佳著……………A5判 9,500円 塙書房
天野和夫元立命館総長・学長のご令室天野芳子氏からのご寄附にもとづき、立命館大学大学院修了者および法の基礎理論に関わる若手研究者の中から特に優れた業績をあげた方を表彰し、その研究を奨励することを目的とした賞。

【第11回 国際宗教研究所賞】

世俗を生きる出家者たち—上座仏教徒社会ミャンマーにおける出家生活の民族誌—
藏本龍介著……………A5判 5,000円 法藏館
1954年5月に設立 今日的な問題意識に立つ宗教研究に授与する。

〈第22回(2015年) 社会政策学会 奨励賞〉

介護はいかにして「労働」となったのか

森川美絵著……………A5判 6,000円 ミネルヴァ書房
会員の社会政策に関する研究の発展に資するため、優れた研究業績を発表した会員を表彰する。

〈第10回 女性史学賞〉

公立高等女学校にみるジェンダー秩序と階層構造

土田陽子著……………A5判 5,500円 ミネルヴァ書房
歴史学のうち、女性史学に関する優れた著書に授与し、女性史のより一層の発展を図るために創設された。

〈2016年度 日本社会福祉学会学会賞 奨励賞〉

知的障害者の「親元からの自立」を実現する実践

森口弘美著……………A5判 5,000円 ミネルヴァ書房
社会福祉研究の一層の発展を図るために、学会員のうちで顕著な研究業績をあげた者の顕彰および若手研究者の研究奨励を目的とする。

〈2016年度 日本ソーシャルワーク学会学術奨励賞〉

ソーシャルワークにおける「価値」と「原理」

衣笠一茂著……………A5判 8,000円 ミネルヴァ書房
ソーシャルワークの若手研究者の研究と実践の一層の発展を図るために、学会員のうちで顕著な研究業績をあげた者の顕彰および若手研究者の研究奨励を目的とする。

〈平成27年度 一般社団法人廃棄物資源循環学会賞 著作賞〉

ごみと日本人 稲村光郎著……………四六判 2,200円 ミネルヴァ書房
廃棄物資源循環学の進歩、事業の発展に寄与し貢献した会員の中から、特に顕著な功績のあつた会員に対して贈られる。

〈2016年 水資源・環境学会賞〉

戦後河川行政とダム開発 梶原健嗣著……………A5判 7,500円 ミネルヴァ書房
学術的に優れた著書及び論文や、実践的に優れた啓発活動に対して贈られる。

〈第6回 日本生活文化史学会賞〉

辻占の文化史 中町泰子著……………A5判 8,000円 ミネルヴァ書房
鳥越憲三郎先生の遺志に基づき創立された賞。学会会員の図書・論文の執筆者を対象として授与される。

〈第34回(2016年) 雜学出版賞〉

マンホール 石井英俊著……………A5判 1,800円 ミネルヴァ書房
雑学出版賞とは、雑学俱楽部が厳正に審査し、雑学俱楽部の定時総会で表彰するもので、1982年より行われている。

【2016年度 第38回サントリー学芸賞 芸術・文学部門】

乱舞の中世 一白拍子・乱拍子・猿楽一 沖本幸子著……………四六判 1,700円 吉川弘文館
広く社会と文化を考える独創的で優れた研究、評論活動を、著作を通じて行った個人に対して、「政治・経済」「芸術・文学」「社会・風俗」「思想・歴史」の4部門に分けて、毎年贈呈。

【第70回 毎日出版文化賞 企画部門】

現代語訳 吾妻鏡 全16巻+別巻

五味文彦・本郷和人・西田友広ほか編……………四六判 全巻セット 43,400円 吉川弘文館
毎日新聞社が主催する、優れた著作物や出版活動を顕彰するもの。

【第6回 日本考古学協会賞 大賞】

中近世の蝦夷地と北方交易 —アイヌ文化と内国化—

関根達人著……………B5判 15,000円 吉川弘文館
考古学研究の活性化並びに考古学の啓発と普及、人材の育成、社会貢献の増大などを目的に考古学上の業績、及び関連諸分野における考古学関係の業績を賞するもの。

【第4回 古代歴史文化賞 優秀作品賞】

神と死者の考古学—古代のまつりと信仰— 笹生 衛著……………四六判 1,700円 吉川弘文館
島根県、奈良県、三重県、和歌山県、宮崎県が共同で古代の歴史文化に関する優れた書籍を表彰するもの。

ほとけを造った人びと—止利仏師から運慶・快慶まで—

根立研介著……………四六判 1,800円 吉川弘文館
(同上)

【第26回 茶道文化学術賞】

番茶と庶民喫茶史 中村羊一郎著……………A5判 8,000円 吉川弘文館
前年一年間に発表された茶道文化研究に関する優れた著作・論文を対象に茶道文化研究に大きな貢献をしたと認められる研究を顕彰するもの。

【第22回 連合駿台会学術奨励賞】

近世日本の支配構造と藩地域 野尻泰弘著……………A5判 12,000円 吉川弘文館
連合駿台会による「学術賞・学術奨励賞」、明治大学の優秀な研究者を表彰。

【平成27年度 弘前大学学術特別賞】

中近世の蝦夷地と北方交易—アイヌ文化と内国化—

関根達人著……………B5判 15,000円 吉川弘文館
独創的かつ完成度の高い数編の論文を対象とする「弘前大学学術特別賞（遠藤賞）」。研究水準の向上に著しい貢献をした論文を顕彰するもの。

※表示価格はすべて本体価格です。

歴史系学会・シンポジウム開催情報

お城EXPO 2016 一城の美学にふれる3日間*

会期=2016年12月23日(金)～25日(日) 会場=パシフィコ横浜 会議センター

◆問合せ(事務局)=045-663-7227 ◆HP=詳しく述べ

入城券:¥1,500(大人) プレミアム入城券 ¥3,000(大人・「厳選プログラム」参加可)

埼玉県立嵐山史跡の博物館シンポジウム 一関東の戦国末期を再考する*

会期=2017年1月29日(日) 会場=国立女性教育会館 講堂

◆問合せ(事務局)=埼玉県立嵐山史跡の博物館 0493-62-5896 ◆HP=詳しく述べ

◆申込方法=ハガキにて申し込み、応募者多数の場合は抽選。

*印の会場では、歴史書懇話会による出張書籍販売がございます。

歴懇ニュース

◆早いもので、年の瀬まで20日余りになります。

今年も私たち歴史書懇話会は月代わりで「歴史書懇話会・今月のオススメ」の連続ミニフェアを開催してまいりました。ご参加の書店様に少し入れ替わりがありましたが、現在は次の7書店で開催しています（かっこ内はフェア開始の日付）。◇天童市 TENDO 八文字屋（2006年7月～）／◇新潟紀伊國屋書店新潟店（2007年8月～）／◇松江市今井書店グループセンター店（2008年6月～）／◇大阪市喜久屋書店阿倍野店（2013年11月～）／◇大阪市ジュンク堂書店上本町店（2013年11月～）／◇出雲市今井書店出雲店（2014年7月～）／◇名古屋市ジュンク堂書店名古屋ロフト店（2015年6月～）。

このミニフェアを、毎月開催して下さった7書店の皆さん、1年間ありがとうございました。来年もよろしくお願ひ致します。

◆先日（11月13日）NHKスペシャル「終わらない人 宮崎駿」を観る機会がありました。CGによる新しいアニメに挑戦する宮崎に期待しながら見終わったのですが、偶々この番組をネットで検索して驚きました。「信念を持った他人の仕事を否定する権利は、誰にもない」と、宮崎への非難が溢っていました。番組内で、川上量生（ドワンゴ会長・カドカワ取締役社長）の新しいCGのプレゼンを見た宮崎の反応への批判の声でした。ジブリの鈴木プロデューサーに弟子入り中の川上のプレゼンは「人工知能を使って“人間のような体つきをしたもの”が、頭部や背中を脚のように使って這いつるCG」でした。川上は「…この動きがとにかく気持ち悪いんで、ゾンビゲームの動きに使えるんじゃないかなっていう。こういう人工知能を使うと、たぶん人間が想像できない気持ち悪い動きができるんじゃないかな…」と宮崎に説明。宮崎は不自由な身体で必死に頑張る、自身の友人の身体障害者の事を伝えながら「極めてなにか、生命に対する侮辱を感じます」と川上の仕事を拒否したのです。私も同感でしたから、その宮崎の怒りに対して「傲慢」という声がネット上にひろがる事に怖さを感じましたが、今は宮崎の考え方方に賛意を表す声も広がっています。ジブリでの仕事で戦争や差別を憎み平和を訴え、人間と生命の尊厳を基盤に仕事を続けてきた宮崎には、「川上のCGが人間の尊厳を否定する仕事だ」と見えたと思います。

◆ところで、こんなことを考えています。創作するときも他者に向かう時も、受け取る他者がそれを嬉しく思うか、嫌だと思うか。先ず相手の立場に身を置く事が出来ていれば、まるで身体障害者の体の動きを嗤うようなCGを作る事は出来ないのでないのか？ それはさらには、他者から受けた嫌な仕打ちを、次には別の人になり返すという憎しみの連鎖を断ち切るきっかけになるかも知れない。逆に他者から受けた嬉しいことは、その喜びのおそ分けをさらに、別の他者に返すという喜びの連鎖です。そうすれば、いつか民族紛争も戦争もなくなる社会に人類が辿りつけるのではないかと、想像をめぐらしています。あまりにもおめでたい考え方かも知れません。けれど、次期アメリカ大統領トランプの発言や平和憲法の存在の危機を迎えそうな今、憎しみの連鎖をたちきる道を探る事が、歴史書を作る私たちに新しい可能性を拓いてくれると信じています。

どうか皆さまよいお年をお迎えください。

(F N)

2016年歴史書懇話会研修旅行記

広島県・愛媛県

吉原圭太郎
(吉川弘文館)

2016年の歴史書懇話会研修旅行は広島・松山へ2泊3日の行程で訪問した。

初日はまず広島のフタバ図書 MEGA 祇園中筋店様を訪問した。広島駅から電車を乗り継ぎ 30 分ほどのところに所在する郊外型大型複合書店である。事前にご連絡していた商品部の芝様に出迎えて頂き、店内を見学させて頂いた。およそ 1200 坪ある店内では書籍を中心に CD やゲーム、文房具など幅広い商品を扱っている。フタバ図書様の中では専門書を多く扱う旗艦店であり、特に郷土関連書籍は新刊時に大きく展開していただける店舗である。

その後、アストラムラインで中筋駅から本通駅へ移動し、昼食を挟んで紀伊國屋書店広島店様へ移動。1974年に開業したそごう広島店の 6 階にある。

当日は店長代理の幸田様と人文書担当の木下様に出迎えて頂く。客層は年配の方が多く、中国新聞に広告や記事が載ると、切り抜きを持ってこられるお客様が多いとのこと。しっかり地域に根ざした営業をしていると強く感じた。そこから徒歩で、県内随一の繁華街、八丁堀の天満屋八丁堀ビル 7 階・8 階に所在している MARUZEN

広島店様へ向かう。2010 年に 1200 坪で開店した大型店である。階下にはヤマダ電機やユニクロ、美術画廊などがありビル全体として集客力が高い。店頭で加藤店長と人文書担当の丸田様にご対応頂く。郷土関連書籍以外にも、島根県のたたら製鉄や石見銀山など近隣の県のものを幅広く品揃えしていた。紀伊國屋書店様同様、中国新聞の影響が大きいとのこと。店を後にして広島電鉄に乗り、4 軒目のジュンク堂書店 広島駅前店様を訪問。1999 年の開店以来、80 万冊の在庫を特徴として営業している。水上店長と藤川様にご挨拶。天井近くまである棚にびっしりと並ぶ専門書の数々は圧巻の一言。歴史書懇話会員社の商品の取扱い点数は広島県下で最大である。

最後は広島駅から 10 分ほどタクシーに乗り、フタバ図書 TERA 広島府中店様を訪問。キリンビール広島工場の跡地に建設されたイオンモール広島府中の中にある店舗で、テナント数は約 200 あり、家族連れが目立つ。店内では広島カープ優勝セールやカレンダー・手帳フェアなどを大きく展開していた。人文書ご担当の田中様と吉川

様にご挨拶。歴史書分野では、専門書よりも読みやすく単価の安い書籍がよく売れているとのこと。

夜は広島市内のホテルにて、広島市近郊の書店様や大学生協様、販売会社様16名をお招きして、歴史書懇話会会員社との懇親会がおこなわれた。地元の方々にお話を伺うと、広島カープの優勝は東京から訪問した我々の想像をはるかに超える盛り上がりであることが実感できた。日中に広島電鉄で八丁堀駅から広島駅へ向かう電車内で乗客のために、広島カープの缶バッジを配布していた事を思い出す。25年、四半世紀という時間を待ちわびていたのであろう。その後はお酒も入り、有意義な意見交換がおこなわれた。特に、普段はライバルであろう書店様同士がお互いの工夫している点や売れている書籍の展開方法など共有しようとしている様子を拝見し、感銘を受けた。そういう書店様や販売会社様の橋渡し役も我々歴史書懇話会の役目の一つかあらう。

その後も店を変え、二次会から三次会、最後の四次会まで、広島の夜は長く、話が尽きることはなかった。

翌日はマイクロバスを借り宿泊先のホテルから、しまなみ海道で瀬戸内海を渡り、大島にある今治市村上水軍博物館を見学。学芸員の田中謙様より詳細な展示解説をしていただく。

村上氏は古代から中世にかけて活躍した一族である。能島・来島・因島の

三家からなり、特に戦国時代には瀬戸内海の広い地域を支配し、海運の動向に大きな影響を持った。3氏の中で最も独立性が高く、独自の姿勢を貫いた能島村上氏は海上警固や諸藩と貿易をし、また自然地理を活かした難攻不落の島城を築き全盛を謳歌した。そういう瀬戸内海における能島村上水軍の活躍を、当時の時代背景を加味しながら丁寧に解説頂き、一層の理解を深めることができた。田中学芸員は当初、出張予定であったが歴史書懇話会のために予定を変更してご対応くださった。2014年に和田竜さんの『村上海賊の娘』が本屋大賞を受賞し、来場者数が激増しているとのこと。平日であったが、年配の方を中心に多くの来場者がいた。

午後からは瀬戸内海の島々に別れを告げ松山へ移動。愛媛大学生協城北ショッピングセンターを訪問した。書籍仕入ご担当の高野様にご対応いただき。採用品により売上が大きく変動すること。また歴史書の棚とは別の場所で、愛媛県の郷土関連書の棚を設けて頂いており、歴史書懇話会の会員社の専門書も揃えていただいている。その後、隣接する松山大学生協様を訪問。当日の交通状況により、到着時には店舗の営業時間は終わっていたが無理を言って仕入ご担当の山本様にご対応いただいた。その後松山市駅へ移動し、紀伊國屋書店いよてつ高島屋店様を訪問。高島屋内の立地ということでシニアを中心と

したファミリー層を意識した棚作りをされていた。歴史書ご担当の秋山様にご対応頂く。歴史書の棚は少ないが、売れている書籍は、しっかり在庫している印象。取次店の配本を中心に関開しているので、今後も売れているものがあれば紹介してくださいとのこと。お店を後にしてジュンク堂書店松山店様を訪問。池袋本店のようにビル全体が店舗となっており、愛媛県下で最大の品揃えである。店舗の前には“歓迎

歴史書懇話会”という幟も設置して頂き、海田店長と人文書ご担当の木崎様・原様にお出迎えいただく。店内は会員社全社の商品を常備で在庫頂いており、「村上水軍」「大洲藩」「宇和島藩」といった郷土関連のキーワードのものも、県内各地からお買い求めに来られる方が多いようで特に動きが良いと伺った。

最後は徒歩で明屋書店営業本部商品課様を訪問した。会議室で竹内係長と宮原様に、歴史書懇話会の趣旨や主な事業を説明させて頂く。また明屋書店様からは現在の歴史書の販売アプローチ方法やお取り組みなどを伺った。今後は歴史書懇話会が隔月で刊行している「歴史書通信」をお送りし、郷土関連書が刊行される際はご連絡するとい

う形で、相互で協力をすることになった。その後、商品部の方々に各会員社の商品をPRさせていただいた。活発な情報交換により有意義な訪問となつた。

2日目の行程を終え、道後温泉の旅館に移動。瀬戸内の風景や今日お会いした皆様の話、今後の営業・販売活動など初日に続き活発に各会員社と意見を交換し、この日も話が尽きることはなかった。

最終日は松山市内で研修を兼ねて各文化施設を訪問。松山城・坂の上の雲ミュージアムなどを見学した。特に日本100名城にも選ばれている松山城は、水軍の将であった加藤嘉明が防衛のために築いた平山城のため高い丘の上にあり、天守閣からの眺めは格別だった。

今回訪問させて頂いた広島・松山の書店様は我々歴史書懇話会の訪問を温かく迎えて下さった。また、その中で様々な要望や意見をいただいた。今後も良好な関係を維持しながら、ご期待・ご要望に応えていくべきだと感じた。最後になりましたが、お忙しいなか、お時間を割いてくださった書店様や販売会社様、ご同行いただきました方々に心よりお礼申し上げます。

今、語られる「明石原人」の謎！

直良信夫の世界

博物学者
20世紀最後の

杉山博久著 「明石原人」発見で知られた直良の広い研究領域を、

可能な限り辿り、その仕事を没後30年に顕彰。晩年、最も身近にあつた著者だからこそ知る「明石原人」に関わる諸見解も紹介。今後の再評価が期待される。今、「明石原人」の謎が語られる！ 『刀水歴史全書93』 四六上製 300頁 ￥二五〇〇

未発表原稿叢書 直良信夫博士が著者の元に残した原稿、ノートから、特に一〇点を掲載（首次末尾）【本書叢書の未発表原稿観】 参照

日本と世界の歴史家 114人の列伝全五巻

20世紀の歴史家たち

日本編（上・下・続） 編著：今谷明・大濱徹也・尾形勇・樺山紘一

世界編（上・下） 編著：尾形勇・樺山紘一・木畑洋一

歴史家は20世紀を如何に生きたか？ 歴史学は如何に展開したか？ 科学としての歴史学と人間としての歴史家、その知と生を、20世紀末に、生々しく見つけだした

『刀水歴史全書45』 四六上製 二八〇～四〇〇頁 各冊 ￥二八〇〇

*全25巻完結から早や二〇年。今、改めて繰りて頂きたい（内容紹介全文）

妖獣バニヤップの歴史

藤川隆男著 オーストラリア先住民と白人侵略者のあいだで

バニヤップは先住民に伝わる幻の生き物。イギリスの侵略が進むなか、白人入植の民話とともに取り入れられた有名な童話のキャラクターとなる。この動物の記録を通して語るもう一つのオーストラリア史。バニヤップがツイッター始めます！ 『刀水歴史全書91』

好評発売中！
妖獣バニヤップの歴史
オーストラリア先住民と
白人侵略者のあいだで
藤川隆男著



日本編（上・下・続） 編著：今谷明・大濱徹也・尾形勇・樺山紘一
世界編（上・下） 編著：尾形勇・樺山紘一・木畑洋一
歴史家は20世紀を如何に生きたか？ 歴史学は如何に展開したか？ 科学としての歴史学と人間としての歴史家、その知と生を、20世紀末に、生々しく見つけだした
『刀水歴史全書45』 四六上製 二八〇～四〇〇頁 各冊 ￥二八〇〇
*全25巻完結から早や二〇年。今、改めて繰りて頂きたい（内容紹介全文）

マルセイユの都市空間

深沢克己著 幻想と実存のあいだで
「世界史の鏡 都市6」 四六並製 二〇〇頁 ￥二〇〇〇

黒死病関係史料集

吉野尚武著 原典と考察
A5上製 六六〇頁 ￥一四〇〇〇

これが歴史だ！ 21世紀の歴史学宣言
ジョー・グルディ & D.アーミティージ／平田雅博・細川道久訳
『刀水歴史全書92』 四六上製 二〇〇頁 ￥二三〇〇

刀水書房

tel. 03-3261-6190 fax. 03-3261-2234
<http://www.tousuishobou.com>

[価格は税抜]
〒101-0065 千代田区西神田2-4-1
東方学会本館

名著で読む世界史120

池田嘉郎／上野慎也／村上衛／森本一夫編

『旧約聖書』『論語』『コーラン』『西遊記』『ハムレット』『資本論』など名著120点を歴史的視点から解説し、新しい知の発見へと導く読書ガイド。

A5判 368頁 本体1800円

B6変型判 本体1500円

都市・身分・新世界

山川レクチャーズ9

『フランスフリージョゼフ・ルツィウ著 高瀬紀憲／竹下和亮編
18世紀の英仏市民の政治参加の動機の相違や、新世界をめざして大西洋を渡ったフランス貴族の実態を、個人に着目して検討し、広く比較社会史の視点から、近世ヨーロッパの政治空間を論じる。』

A5判 368頁 本体1800円

B6変型判 本体1500円

祭礼で読み解く歴史と社会

春日若宮おん祭
の900年

幡籠一弘・安田次郎著 奈良の歴史や社会の変遷、寺社の役割、伝統芸能など、多様な分野を、約900年にわたって統いてきた「おん祭」を通して明らかにする。豊富な図版を掲載し、わかりやすく解説。

A5判 208頁十口絵4頁 本体2000円

山川歴史手帳

コンパクトながら充実した付録で定評のある歴史手帳。
2017年版 本体750円

摂関期の国家と社会

《史学会シンポジウム叢書》

摂関期の国家や社会は、律令制から平安時代前期をへて、いつどのように変化し、また何が変わらなかつたのか。多様な切り口から実証的に考察する。2015年史学会大会シンポジウムをもとに編集。

A5判 296頁 本体4000円

感染症の近代史

日本史リブレット96

内海孝著 開港後、伝染病の流行に悩まされた日本は、西洋に学び検疫体制や衛生政策を整備していく。近代の歩みと世界規模の感染症の問題を考える。

A5変型判 120頁 本体800円

後三条天皇

日本史リブレット人21

—中世の基礎を築いた君主

美川圭著

藤原頼通との政治闘争をへて即位、莊園整理令を強行し、大内裏・内裏を復興した後三条天皇。摂関政治に幕を引き、院政時代を開いた生涯に迫る。A5変型判 96頁 本体800円

都市史研究(3)

2016

都市史学会編

都市史学会の会誌の第3号。論文「明治期東京の町と土地売買」・研究ノート「日本統治初期台湾における築港構想について」のほか、小特集「水都市」・書評など。

B5判 168頁 本体3800円

山川出版社

東京都千代田区内神田 1-13-13
電話 03-3293-8131 https://www.yamakawa.co.jp/

[価格は税別]

天皇の方のありようを美術作品から照らし出す!

天皇の美術史

全6巻
〔企画編集委員〕高岸 雄・五十嵐公一
各3500円〔内容案内〕送呈

石田三成伝

中野 等著

3800円

豊臣政権を支えた五奉行の一人。
多くの挿話で語られた実務に優れた青白きインテリ像を超えて、
一次史料からその生涯を解明。

八代目市川團十郎

木村 嶺著
江戸後期の花形役者として一世風靡するも、三二歳で突然の死を遂げた八代目市川團十郎。歌舞伎十八番など家の芸を継承しながら独自の個性を積み重ねた舞台姿、成田山との交流を活写する。新発見の團十郎一家の手紙を紹介しつつ生涯を描き出す。

2800円
氣高く咲いた江戸の花

国際化時代「大正日本」

〔寄り添う専門職の誕生〕

3500円
山下麻衣著

櫻井良樹著
植民地帝国へ変貌した日本は、中国の革命や第一次世界大戦への対処、流入していく欧米の文化・思想の受容など、様々な国際化に曝された。対華方法や職務内容などの歴史を描く。今日の看護の労働実態の根源に迫る。

古代の東国

全3巻
各2800円〔内容案内〕送呈

①前方後円墳と東国社会

古墳時代

（第1回）

若狭 徹著

なぜ関東各地に多くの前方後円墳が造られ、独自の文化が生まれたのか。古墳の立地・形態・規模・出土品などから当時の社会のあり方や変化、朝鮮半島との交流、豪族たちの実像を読み解く。

〔続刊〕②坂東の成立

飛鳥・奈良時代・川尻秋生著

〔③覺醒する関東〕

平安時代・荒井秀規著

②治天のまなざし、王朝美の再構築
絵巻物や肖像画を軸とした院政期美術を再検討、未解明の十四世紀美術史を把握。

〔第1回〕
王權と美術戰略室町・戦国時代：高岸 雄・平安時代：増記隆介・川瀬由照・皿井舞・佐々木守俊著／③乱世の

野口剛・五十嵐公一・門脇むづみ著／④朝廷權威の復興と京都画壇江戸時代前期：

庸二郎・江口恒明著／⑤近代皇室イメージの創出 明治・大正時代：塩谷純・恵美子鶴子・増野恵子著

鎌倉・南北朝時代

伊藤大輔著

加須屋誠著

〔第2回〕

よみがえる古代山城

440

江戸の乳と子ども
向井一雄著
白河法皇が、賀茂川の水、双六の賽とならべて意のままにならぬと嘆いた僧兵彼らは行動を衆議で決め、仏法と本山を守り行動した。民衆としての僧兵集団を再評価し、仏教扶持と發展につくした実態を解明。

1700円
いのちを
つなぐ

僧兵盛衰記

〔読みなおす日本史〕

渡辺守順著
1300円
高橋信武著

白河法皇が、賀茂川の水、双六の賽とならべて意のままにならぬと嘆いた僧兵彼らは行動を衆議で決め、仏法と本山を守り行動した。民衆としての僧兵集団を再評価し、仏教扶持と發展につくした実態を解明。

1700円
いのちを
つなぐ

西南戦争の考古学的研究

渡辺守順著
1300円
太田久元著

戦間期の日本海軍と統帥権
19500円
吉川弘文館

1300円
太田久元著

吉川弘文館

歴史手帳 2017年版

日記と歴史百科が一冊となった、便利な手帳。 900円

(価格は税別)

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-2-8 / 電話 03-3813-9151 代表



歴史書懇話会

▶会員社名簿◀

- 明石書店 101-0021 千代田区外神田 6-9-5 〈担当者：深谷直樹〉
TEL. 03-5818-1171 FAX. 03-5818-1174
- 校倉書房 169-0051 新宿区西早稲田 1-1-3 〈担当者：石田 亘〉
TEL. 03-3203-4851 FAX. 03-3203-4854
- 思文閣出版 605-0089 京都市東山区古門前通大和大路東入元町 355 〈担当者：中江俊治〉
TEL. 075-751-1781 FAX. 075-752-0723
- 東京堂出版 101-0051 千代田区神田神保町 1-17 〈担当者：鈴木 淳〉
TEL. 03-3233-3741 FAX. 03-3233-3746
- 刀水書房 101-0065 千代田区西神田 2-4-1 〈担当者：中村文江〉
TEL. 03-3261-6190 FAX. 03-3261-2234
- 同成社 102-0072 千代田区飯田橋 4-4-8 〈担当者：榎 茹典〉
TEL. 03-3239-1467 FAX. 03-3239-1466
- 塙書房 113-0033 文京区本郷 6-8-16 〈担当者：関口守俊〉
TEL. 03-3812-5821 FAX. 03-3811-0617
- 法藏館 600-8153 京都市下京区正面烏丸東入 〈担当者：西村明高〉
TEL. 075-343-5656 FAX. 075-371-0458
- ミネルヴァ書房 [本社] 607-8494 京都市山科区日ノ岡堤谷町 1
TEL. 075-581-0296 FAX. 075-581-0589
[東京支社] 101-0052 千代田区神田小川町 2-4-17 大宮第1ビル 6F
TEL. 03-3296-1615 FAX. 03-3296-1620 〈担当者：須藤 圭〉
- 山川出版社 101-0047 千代田区内神田 1-13-13 〈担当者：菊池敏彦〉
TEL. 03-3293-8132 FAX. 03-3292-2994
- 吉川弘文館 113-0033 文京区本郷 7-2-8 〈担当者：春山晃宏〉
TEL. 03-3813-9151 FAX. 03-3812-3544

2017年1月1日発行・第229号

発行 歴史書懇話会

113-0033 文京区本郷 7-2-8 吉川弘文館内
(非売品)

取扱店

法藏館書店

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入
TEL. 075-343-0458 FAX 075-371-0458